

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グループホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798番地1		
自己評価作成日	令和3年12月13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5つの理念、「家庭的な生活に近づけるように支援します」、「市民生活を継続します」、「楽しい雰囲気を作ります」、「人としての尊厳を重視します」、「自立と協調を支援します」を念頭に置き、利用者が安心して生活が送れるように、身体拘束をしないケア、虐待に対する考え方、接遇マナーについての勉強会に力を入れている。結果、利用者の歌声、笑い声が日々良く聞こえている。また、認知症が重度化している中、退所入所が令和2年11月よりない。これは、日常生活のリズムが整えられ、良く食べること、良く眠ること、健康維持ができていない結果ではと判断している。職員も新型コロナウイルス感染拡大防止として自粛を強いられた中、今まで以上に健康に留意し、休むことなく職務を遂行している。昨年の2月より退職者もない。地域の防災訓練に利用者、職員共に引き続き参加して交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人愛隣会が運営する当ホームは、近隣に特別養護老人ホーム、デイサービス、小規模多機能居宅施設、短期入所施設、居宅介護支援事業所、サービス付き高齢者向け住宅のほか協力医療機関である波佐見病院があり、入居者が住み慣れた地域で安心して暮らしを継続できるよう関連事業所と連携し、臨機応変に対応している。職員の介護力により、入居者がよく食べ、よく寝て、楽しく過ごされており、重度化してもできる限り口から食べる喜びを実感してもらい、おいしいものを安全・安心して食べられる事を支援している。地域柄、入居者同士や、家族と職員が以前からの顔見知りや馴染みの関係があり、地域住民がロコミで見学に訪れ入居に繋がったり、地域の防災訓練時には入居者と職員が共に参加したり、毎年節句の時期には近隣住民から竹の皮を提供してもらい、恒例の粽を作って近隣住民に配るなど、地域に溶け込み、地域との繋がりを大切にしている。現在コロナ禍の為、外出や面会等は制限されているが、ユニット間の交流や、人込みを避けて初詣に参拝するなど、地域の感染状況を踏まえ、できる範囲で支援に努めている。今後も関連事業所と連携し、地域に根付いた更なる支援に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 れもん

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に両ユニットで5つの理念を読み上げ、その日の介護に実践できるように努めている。	職員は理念のもと、個人目標を立て日々の支援を行っている。朝の申し送り時には両ユニットで5つの理念を読み上げ職員への意識づけを図っている。法人本部に各種委員会を設置し、ホームからも分野別の委員を選出して役割を持ち、5つの理念の実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災・避難訓練に利用者・職員共に参加したり、毎年、恒例のちまき作り時、ちまきの皮を頂いたり、苺農家より苺を頂いている。お礼にちまきを作り召し上がって頂くなど交流がある。	コロナ禍により以前のような地域との関わりは自粛している。ホームでは年1回の地域防災訓練や河川の氾濫を想定した訓練に参加したり、5月の節句には近隣住民から竹の皮を提供してもらい、ホームで干して毎年恒例の粽を作って近隣住民に配る等、できる範囲で地域との繋がりの継続を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来訪された方や波佐見町民生委員の方の慰問時に相談を受けている。地域の防災・避難訓練時に車椅子操作方法や認知症および難聴の方への言葉かけについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催。コロナ禍の為、会議室での話し合いが主であった。利用者の入所、退所状況や職員の入職、退職状況や消防訓練や新型コロナウイルス感染対策の取り組みなどの報告を行い意見交換を行っている。	コロナ禍ではあるが、必要な感染対策により出席者が密にならないよう対策を講じて運営推進会議を開催している。ホームの現況報告等に対し構成メンバーから意見や質問が挙がり、双方向の会議が行われている。挙がった意見等は入居者の日々の支援に反映するよう努め、運営に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の届け、事故報告書、はさみ里便りを提出したり、運営推進会議に参加して頂き協力関係を築いている。	波佐見町長寿支援課の職員が運営推進会議の構成メンバーであり、同会議を通じてホームからの報告に対して意見や指導を受け、運営に活かしている。最近ではBCP(業務継続計画)の作成について助言を得ている。地域包括支援センターとはホームの空床状況の提供や、情報交換を行う等、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	愛隣会の身体拘束廃止委員会の一員として月1回会議に参加したり、年2回勉強会としてスピーチロックについて意見交換を行ったり、環境面の抜き打ちチェックを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回、法人の身体拘束廃止委員会に担当職員が出席し、他の職員へ委員会で挙げた内容を周知するとともに、ホーム内では年2回内部研修を行い、身体拘束をしないケアへの意識づけを図っている。新人職員には入職後2週間以内に研修を実施している。ホームでは身体拘束をしない支援に取り組み、スピーチロックについても常に職員間で意識し合いながら日々の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に虐待防止の理解、考え方について資料を基に意見交換を行ったり、自己チェックシートによる自己評価を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームには該当者はいないが、新聞や研修などで理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書に沿って、また改定時は書面にて説明し不安や疑問点を尋ね、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の説明や意見箱の設置、面会時やアンケートによる意見を重視し運営に反映している。	コロナ禍で面会を制限している。職員は家族と電話連絡や、入居者との短時間の窓越し面会時に家族の意見や要望を聞き、その後、管理者へ報告するとともに連絡ノートに記録を残し、他の職員と情報共有を図っている。	コロナ禍により、面会制限が行われ家族の不安や困惑が生じやすいことを考慮し、家族への情報伝達の際は職員によって差異が生じないよう、あらためて職員間の情報共有の強化を図り、家族へ必要な情報伝達を確実に実行できるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々、職員の意見を聞く姿勢を持ち、必要時は愛隣会の上司へ報告したり、上司による個人面接にて意見を述べる機会を設け、運営に反映している。	月1回開催する職員会議は、職員間で活発な意見交換が行える場となっている。以前は避難通路に段差があり、有事の際にスムーズに避難ができなかったことを踏まえ、職員からの意見として法人本部へ挙げ、段差をスロープに改修する等、ホーム職員の意見が運営に反映されており、より良い環境作りに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課導入や給与、賞与に関して説明を受けている。また、時間外勤務がないように努め、やむを得ない時は時間外手当金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量に応じて資格修得や研修参加に努めている。ここ1年はコロナ禍にてリモート研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川棚・波佐見グループホーム協議会に参加したり、東彼3町セミナー主催によるリモート研修に参加、また介護保険審査員としての活動を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みを兼ねて見学時や自宅訪問時に困ったこと、不安なこと等に耳を傾けて、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、家族にも申し込みを兼ねて見学される際や自宅訪問時に困ったこと、不安なこと等に耳を傾けて、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人・家族やケアマネジャーより、情報収集を行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	屋外を一緒に散歩したり、生活リハビリとして、洗濯物干しや洗濯物たたみ、お盆拭き、裁縫を一緒に行う等、個々の利用者が何が出来るかを見極めて関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、限られた時間での面会や電話での会話する時間を設け、本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ねて、故郷巡りを行い、馴染みの場所や人の交流を行ったり、両ユニット間で馴染みの利用者との交流の場を設け、途切れないように支援に努めている。	コロナ禍の中で感染対策を講じながら入居者の故郷巡りや馴染みの場所へ出かけたり、墓参りや初詣へ参拝するなど、入居者が大切にしていたことを把握し支援している。ユニット間で馴染みの入居者同士が会話ができる環境を作り、その関係を継続できるよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席の配置、孤立しないように散歩を行う等支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者家族の相談に応じたり、年賀状が届いたり、遠方にもかかわらず電話を頂いたり、関係を断ち切らない取組が継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時やケアプラン作成時に意向の把握に努め、その時々々の思いや希望を聞き支援に努めている。	発語が困難で自分の思いや意向を伝えることができない入居者には日々の生活支援の中で、職員が本人の表情を観察し本人本位に検討したり、その方へ選択肢を提示し自己決定に繋げ本人の意向に沿った支援に取り組んでいる。職員は日頃の入居者との会話の中で、ホームでの暮らし方の希望や思いを把握し、職員間で共有し、聞き取った内容によってはケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時や入所時に、家族やケアマネジャーより情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受け持ち制を導入して、個々の過ごし方や心身の状態を把握し、職員間で共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ちによる情報収集を行い、ケアプランナーにより介護計画を立案し、職員並びに家族とケア会議を行っている。	入居者毎に担当職員を設け、必要な入居者の情報を介護支援専門員が把握している。ケア会議開催時には必要に応じて家族も参加し、意向を聞き取っている。その後、介護計画の原案を作成し、家族へ計画内容を説明している。目標に沿った支援が実施できるよう日々の記録の支援内容に採番し、達成度を記録して次回の見直し時に反映できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、介護実践を行い個別記録に記入し職員間で共有し、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、看取り期の利用者を勝手口に近い居室に移動し、家族が勝手口から出入り出来るように調整し、最期を一緒に過ごして頂いた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容を受けたり、案山子見物等地域の行事に参加する等暮らしを楽しむことが出来るよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院以外に、川棚医療センターや小鳥居クリニック等、個々に応じた受診支援を行っている。	入居時に、入居者及び家族へかかりつけ医への受診について説明している。入居者の多くは当ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている。他科への受診に際しても職員が受診に同行している。法人全体でNチャット方式(健康管理アプリ)を利用し、入居者の健康管理を行っている。看護師による24時間対応体制を整えており、家族の安心感に繋がっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃から病気について学ぶ機会を設け、異常の早期発見に努め、看護師へ相談、報告している。看護師は24時間対応できる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを提供し、早期に退院できるように主治医や看護師との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、家族と話し合いを重ねたり、必要時は主治医より、病状説明をして頂いている。また、最期をどこで迎えたいかを家族（本人）に確認し個々に応じた支援を行っている。	入居者が、食事の摂取が困難となった際にかかりつけ医に報告し、できるだけ経口摂取ができるよう嗜好食を提供している。重度化した際は家族に説明し、意向を聞き取って、家族へ意向確認書、看取り同意書に同意を得ている。入居者及び家族の意向に沿い、その人らしい最期が迎えられよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒時や誤嚥時の対応、吸引方法、事故発生の要因・対策の考え方について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、消防避難訓練を行っている。昨年度は稗木場郷の鮎返り橋の氾濫を想定して、愛隣会職員と近隣の方に協力して頂き、グループホーム入居者の避難訓練を行った。毎日の自主検査、年に4回の定期自主検査を行っている。	避難訓練には、入居者、家族、近隣住民、関連事業所職員、施設長等が参加している。同時に消防設備点検を実施している。訓練終了後には参加者間で活発意見交換や消防署の指導を得、反省点は記録に残し、次回の訓練に活かしている。自然災害に関し、河川の氾濫を想定した訓練を実施する等、非常災害時に向けて的確な行動ができるよう訓練実施に努めている。BCP（業務継続計画）に関しては施設長が講師役となり計画策定に着手している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に、利用者、家族の対応、接遇マナーについて勉強会を行っている。難聴の方には耳元で声かけたり、筆談している。同じ質問や話をされる方には、否定せず話を聞くようにしている。	法人本部の接遇委員会に担当職員が参加し、議題に挙げた事項はホームに持ち帰り勉強会を実施するなど職員間で共有している。各職員が入居者への接遇を踏まえた正しい接し方ができるよう接遇チェックシートを用いて振り返りを行い、適切な言葉かけや対応など入居者の人格を尊重した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に働きかけるのではなく、自己決定できるように、「どうしますか？」と問いかけている。意思を表出できない方には、「はい」、「いいえ」で選択できるように問いかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「居室で過ごしたい」、「昼寝をしたい」、「ソファで休みたい」、「〇時にトイレに行って、部屋に行きます」等と意思表示される方が多く、希望に沿った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	若い頃から使っている化粧水を毎朝と入浴後につけられる。定期的な顔ぞりの支援を行っている。3ヶ月毎に訪問理容を受けられる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好物を把握し多めに差し上げたり、数種類のおやつ時は選んでもらっている。食事前後はテーブルやお盆拭きを職員と一緒にやっている。	食事は母体法人の厨房で調理したものを提供し、主食はホームで炊飯を行っている。同法人関連事業所の管理栄養士が献立を作成しており、栄養面や罹患している疾患に対して入居者が食事を摂る際の留意点等、管理栄養士より適宜指導を受けている。入居者の希望に応じておやつを提供することもある。数名の入居者は野菜の下拵え、テーブル拭き等、職員とともに食事への関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算、献立作成。個々に応じて、食べやすく刻んだり、ミキサー食にしたり、摂取量が少ない時は好まれるものを補食として差し上げている。認知症により、食べる行為ができない方は介助している。夜間の水分補給を勧めて脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き支援を行い、不十分な方には介助を行っている。義歯の方は臭いが生じないように洗口液を使用したり、ポリドント消毒を週2回行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握しトイレに誘導している。また、e-ballを使用し膀胱括約筋の強化を行い、尿漏れ防止に努めている。	職員は入居者の排泄状況を記録してその方の排泄パターンの把握に努め、入居者個別の排泄支援を行っている。コロナ禍の影響で一時寝たきりになった入居者もホームの支援により早期に改善し、排泄が自立するまでに回復した事例も窺える。担当職員を中心に、入居者が使用するパッド等の適切な使用量を職員間で話し合い、家族の金銭的負担にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝の冷水、ヤクルトを摂取したり、毎日の散歩や腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。効果なければ、薬剤による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長風呂を好まれる方や好みのお湯の温度を把握し入浴の順番を配慮している。入浴日に入浴できなかった方にはりんごユニットで入浴して頂く等臨機応変に支援している。	週2回入浴を実施しているが、入浴を拒否する方や体調不良で入浴ができない場合には入浴日の変更やユニット間で入浴ができるよう臨機応変に対応している。季節感を味わえるよう菖蒲湯や柚子湯を行ったり、入居者が希望する湯温や入浴の順番への拘りを考慮し、入居者個々に応じて入浴を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「まだ、眠くない、テレビを見たい」と意思表示される方は、居間で職員と一緒にテレビを見たり、途中、起きられ、「なして、ここに居るとですかね」と不安を訴える方には、暫く、居間でお茶を飲み過ごして頂いたり、「ここにいますよ」と声かけ戸を開けた状態にすると安心して休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿って準備し、口に入れ飲み込まれるまで確認し服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションとしてリズム体操、散歩、カラオケ、外気浴、尻取りゲーム等を行い笑い声が聞こえる一時を過ごして頂くよう努めている。また、家族からの差し入れのおやつを楽しみに待たれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族との外出は控えているが、故郷巡りや花見、初詣に行ったり、病院受診後に自宅に(車中)に寄るなど支援している。	コロナ禍で以前のような外出支援はできていない。尚、入居者への個別支援で、ドライブを通じて以前からの馴染みの場所へ出掛けたり、病院受診後に自宅に行き、車両の中から以前住んでいた家を眺める等、感染対策を考慮しながら可能な範囲で外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されているが、使われることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供さんより手紙や贈物が届き、お礼の電話をしたり、帰宅要求時には家族へ電話をかけて話される。また、携帯電話をもっている方は、自由に居室で話される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレの標示、季節感のあるカレンダーを作り、居間に飾っている。冬、夏共にエアコンによる温度調節を行い、冬場の入浴時は脱衣室と洗面所の温度差を最小限にするためにエアコンの温度を高めたり、電気ストーブを使用している。	共用空間には入居者が季節を感じることができるよう雛人形用のひな壇を飾ったり、季節に応じた飾りを作成して壁に貼るなど入居者の見当識に配慮し、穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。共用空間の要所の清掃とともに感染予防対策としてオゾン発生装置を設置している。遅出の職員が清掃や換気を行い、廊下は30度設定で温度管理を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士の席の配置、一人で居室でゆっくりとテレビを見たり、その人の想いで過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家族の写真を飾ったり、使いなれたテーブルを設置するなど本人、家族と話し合って工夫している。	入居時に家族へ居室へ持ち込むことができるものについて説明している。居室には使い慣れたたんすやテレビを持ち込んだり、仏壇や位牌を持参している。入居者が大切にしてきた信仰心にも配慮した支援を行っている。夜間はバスタオルを湿らせて空気の乾燥を予防したり、風邪や咳等の症状があれば夜間に加湿器を居室に設置するなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや場所の標示を行い、障害物がないように整理整頓に努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 りんご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に両ユニットで5つの理念を読み上げ、その日の介護に実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災・避難訓練に利用者・職員共に参加したり、毎年、恒例のちまき作り時にちまきの皮を頂いたり、苺農家より苺を頂いている。お礼にちまきを作り召し上がって頂く等交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来訪された方、波佐見町民生委員の方の慰問時に相談を受けている。また、地域の防災・避難訓練時に近隣の方に車椅子操作方法や認知症及び難聴の方への言葉かけについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、運営推進会議を開催。コロナ禍の為、会議室での話し合いが主であった。利用者の入退所状況や職員の入職、退職状況や消防訓練や新型コロナウイルス感染対策の取り組みなどの報告を行い意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の届け、事故報告書、はさみ里だよりを提出したり、運営推進会議に参加して頂き協力関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	愛隣会の身体拘束廃止委員会の一員として、月1回会議に参加したり、年2回勉強会として、スピーチロックについて意見交換を行ったり、環境面の抜き打ちチェックを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に虐待防止の理解、考え方について資料を基に意見交換を行ったり、自己チェックシートによる自己評価を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームには該当者はいないが、新聞や研修などで理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書に沿って、また改定時は書面にて説明し不安や疑問点を尋ね、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の説明や意見箱の設置、面会時やアンケートによる意見を重視し運営に反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々、職員の意見を聞く姿勢を持つことに努め、必要時は施設長に報告したり、施設長による個人面接にて意見を述べる機会を設け、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課導入や給与、賞与に関して説明を受けている。また、時間外勤務がないように努め、やむを得ない時は時間外手当金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量に応じて資格修得や研修参加に努めている。ここ1年はコロナ禍にてリモート研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川棚・波佐見グループホーム協議会に参加したり、東彼3町セミナー主催によるリモート研修に参加、また、介護保険審査員として活動を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に在宅訪問を行ったり、当ホームに来訪して頂き、また入所時に困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けて、安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、入所前、来訪時、入所時に家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に基礎情報をとり、その時に必要とする支援を見極め、初期計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、洗濯物たたみや枕カバー交換、新聞紙等でゴミ箱作り、ジグソーパズルなど談笑しながら行い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や介護計画の説明時に情報提供したり、電話希望や贈物が届いたら電話の取次ぎを行っている。また、メールで動画を家族に送るなど関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷巡りを行い、馴染の場所に行ったり、両ユニット間で、顔見知りや親せきの方と交流の場を設け、途切れないように支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席の配置やソファーでの談話、散歩を行うなど、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族から毎年、ちまきの皮を頂き、関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時やケアプラン作成時に意向の把握に努め、また、日々の関わりの中で意向を見逃さないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーより、これまでの生活歴や暮らし方等、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受け持ち制を取り入れ、日々の状態を記録し、職員間で申し送りを行い、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ちにて情報収集を行い、ケアプランナーに情報を提供し介護計画を立案している。職員、家族とケア会議を行いモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、介護実践を行い個別記録に記入し職員間で共有し、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	配偶者の危篤状態時に病院に面会に行く等、希望に応じて支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容を受けたり、案山子見物等地域の行事に参加する等、暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院以外に嬉野病院や小鳥居クリニック等、個々に応じた受診を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃から病気について学ぶ機会を設け、異常の早期発見に努め、看護師に相談、報告している。看護師は24時間対応できる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを提供し、早期に退院できるように主治医と看護師との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族と話し合いを重ね、必要時は主治医より、病状説明をして頂いている。また、最期をどこで迎えたいかを家族（本人）に確認し個々に応じた支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒や誤嚥時の対応、吸引方法、事故発生時の要因・対策の考え方について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、消防避難訓練を行っている。昨年度は稗木場郷の鮎返り橋の氾濫を想定して、愛隣会職員と近隣の方に協力して頂き、グループホーム入居者の避難訓練を行った。毎日の自主検査、年に4回の定期自主検査を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に、利用者、家族の対応、接遇マナーについて勉強会を行っている。また、理念の1つである、『人としての尊厳を重視します』を念頭に優しい言葉かけに心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に働きかけるのではなく、「どうしますか」と問いかけて、思いが表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良く、散歩を望まれる方には職員と一緒に外庭を散歩される。休みたい時は居室に誘導したり、居間のソファで休んで頂いたり、食べ物の欲求時はおやつを差し上げるなど希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水を毎朝、欠かさずつけられる。男性利用者は毎日髭剃りを行われる。3ヶ月毎に訪問理容を受けられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前は、テーブル拭きを職員と一緒にしたり、家族からの差し入れを食べたり、晩酌を好まれる方には、夕食時に湯呑み一杯差し上げる等、食べることを楽しむ支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算、献立作成。個々に応じた食事形態や食が進まない方には無理に進めず、補食としてゼリーやプリン等を差し上げている。また、夜間も水分補給を勧めて脱水予防に努めている。食べる行為ができない方には介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き支援を行い、不十分な方は歯磨き介助、状態に応じ口腔用ウェットティッシュを使用し介助している。義歯の方は、ポリデント消毒を週2回行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し排泄の声掛けを行っている。重度化している方が多くなり、尿意を訴えることが出来ない。その人に応じて、下着や尿とりパッド、リハビリパンツ、紙おむつを使用している。また、立位訓練やe-ballを使用し膀胱括約筋強化訓練を行い、尿漏れ防止に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝の冷水や牛乳を摂取したり、毎日の散歩や腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。効果なければ薬剤調整を行ったり、寝たきり状態の方の便秘対策として看護師による排便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長風呂や好みのお湯の温度を把握し順番を配慮している。また、寝たきり状態の方は、体調をみながら清拭を行っている。また、入浴日に入浴できない方には、れもんユニットで入浴して頂く等臨機応変に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒がりの方には、就寝前よりエアコンの調整や家族にボアシートを持って来て頂いたり、灯りの調整を行い安眠への支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿って準備から口に入れ飲み込まれるまで確認している。錠剤が服用困難な方には、薬剤師へ相談し粉末にするなど、個々に応じた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな方には、花の雑誌を提供したり、居間に胡蝶蘭を飾り観賞して頂いている。天気が良い時は散歩や外気浴を行っている。入所前から嗜好品として、晩酌、眠前のアイスクリームを継続する等、楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族との外出は控えているが花見、鬼木の案山子見物や故郷巡り、初詣に行くなど外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	子供から小遣いを頂かれ自己管理されている。頂いたお金を職員に、「お世話になった」とティッシュペーパーに包み渡されたり、誕生会時に『お礼』と書き、のし袋に入れ渡される。「ありがとうございます」と頂き、家族が来訪時にお返ししている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方から、母の日、敬老の日や誕生日に贈物が届き、お礼の電話をされる。また、コロナ禍の為、面会制限時は、電話で話されたり、月に1回ほど手紙が届き喜ばれるが返信されることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレの標示。冬、夏共にエアコンによる温度調節を行い、冬場は入浴時は脱衣室と洗面所の温度差を最小限にするためにエアコンの温度を高めたり、電気ストーブを使用している。また、門松、ひな壇、七夕、クリスマスツリー等を飾り季節を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士の席の配置やソファでの談話、居室で休みたい時には、ゆっくり休んで頂くように採光調整を行う等工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や配偶者の遺影、仏壇、使い慣れたタンス、テレビ、観葉植物等を置き、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや場所の標示を行い、車椅子の方が多いため自乗出来るように整理整頓に努めている。		